



Michigan Newsletter

March 2026

No.18

ミシガン州経済交流駐在員

経済交流

1. ミシガンにて、信楽、千年の情熱を世界へ！
2. 州内の陶芸を学ぶ学生に紹介、信楽の技と心！ページ1～5

教育交流

1. 未来のキャリアを描く！ミシガン州立大学学生による日本企業訪問

ページ6～8

文化交流

1. 春を告げる、デトロイト美術館ひな祭りイベント

ページ8

経済交流

1. ミシガンにて、信楽、千年の情熱を世界へ！

3月25日～28日、全米陶芸教育協議会(NCECA)が毎年開催している大規模な国際コンフェレンスがデトロイト市にて開催されました。陶芸家、教育者、学生をつなぎ、陶芸分野全体の向上とコミュニティの育成を目的に開催され、世界中から7,000人を超える参加者が集まりました。



夢の共演が実現！

信楽窯業試験場 高畑場長（左）

在デトロイト日本国総領事館 岸守総領事（右）

メイン会場であるハンティントン・プレイスには、陶芸関連の団体が集結し、企業が最新のロクロや窯、小道具などの陶芸用品を、大学等教育機関や非営利団体が陶芸のプログラム等を紹介しました。

米国、中国、ヨーロッパ等の窯業機器メーカーがしのぎを削る企業ブースにて、ニデックドライブテクノロジー株式会社の陶芸製品の欧米販売権を持つ DAIDO(USA) CO.,LTD.に協力をいただき、信楽の窯業・陶芸機械メーカー(株)林田鉄工が、ろくろ成型でできた削りかすや原土や粉末を再利用して粘土を生成する窯業機器等を展示しました。



このコンフェレンスにあわせてミシガンを訪中中の信楽窯業技術試験場高畑場長と、陶芸家でもある在デトロイト日本国総領事館の岸守総領事が、この窯業機器で再生された土を使って作陶デモンストレーションを行い、環境に配慮した資源再利用というコンセプトを来場者にアピールしました。岸守総領事は昨年 7 月に信楽を訪問、(株)林田鉄工を視察されています。粉碎機で原土・粘土の粉碎を行い、その粉を真空式循環粘土再生機に投入。ブースに立ち寄った来場者からは、水分量の違う土を一緒に投入してもいいのか、石でも粉碎できるのか、など質問が相次ぎました。短時間で、外側と内側で均一な土が再生できることを説明すると興味を持ってもらえました。

実は、企業ブースのいたるところでロクロ実演が行われており、会場内で廃棄される土の量はかなりのもの。会場で廃棄される土を再生してみせます！という「素晴らしい！」と好意的にとらえてくださる方が多かったです。アメリカでは個人で趣味で陶芸をたしなむ人も多いのですが、大型の機械であるため、特に陶芸教室を営む方、学校関係者に興味を持ってもらいました。州議会議員の方も視察に足を運んでくださりました。今回の取り組みをきっかけに、今後のアメリカでの販路開拓につながっていけばと思います。



再生された土が押し出されて出てくる様子。



実演が始まると人だかりが。陶芸を学ぶ学生や教育関係者の姿も。



再生土が作られる様子。



ポスターや映像も用いて信楽をアピール！



さらに、メイン会場の外で行われる地域コミュニティと連携した陶芸展もこのコンフェレンスの魅力です。開催都市や周辺のギャラリー、美術館、コミュニティスペースを活用した展示会を企画者が NCECA に提案し、採択されると公式の展示会となります。今回、ミシガン滋賀姉妹県州委員会から以下 2 つの企画が NCECA 公式の展示会となり、世界中の参加者を呼び込みました。

●デトロイト公共図書館本館ギャラリーでの信楽交流展

3月24日から28日の5日間、デトロイト公共図書館本館ギャラリーにて、信楽とアメリカ、姉妹県州であるミシガンのつながりを伝える交流展を行いました。

信楽の土が持つ素朴な力強さは、過去から多くのアメリカ人陶芸家の心を捉えており、こうした信楽の作陶手法に影響を受けたアメリカ人陶芸家に加え、高畑場長、岸守総領事、姉妹都市や信楽につながるのあるミシガン州内の陶芸家を含め、総勢23名の作品を展示しました。



信楽がキーワードのこのユニークな展示会、陶芸家自身に記入してもらった、作品のコンセプトや背景にある信楽のストーリーもあわせて展示し、来場者に作品とともに、そこに隠れた信楽との接点を知り、信楽を身近に感じてもらえるような仕掛けをしました。あわせて、信楽の動画を放映、甲賀市から提供いただいた観光パンフレット等を設置、州内の中学校や図書館や姉妹都市関係者の家で発見した信楽たぬきの写真を展示するなど、姉妹県州のつながりをいろいろな角度から知ってもらえるよう工夫を凝らしました。

ギャラリーといってもコミュニティスペースに近く、準備や作品の搬入にあたりハードルもありましたが、図書館を会場としたことで、何も知らずに図書館に来た学生や地域の人たちにも立ち寄ってもらえたのは大きなメリットでした。

24日夜、同図書館で開かれたレセプションには、州内外から50名以上の来場者が集まりました。出展アーティスト自らが作品に込めた思いや信楽とのつながりについて伝える、リレートークを行いました。信楽窯業技術試験場の高畑場長からは、「効率や正確さ、再現性を強く求める時代に生きる中で、陶芸は不確かの中からこそ価値が生まれる、完璧でないからこそ、人の手に馴染み長く使われる。」と完成された伝統ではない信楽の奥深さや精神を伝えました。



信楽たぬきの写真展も同時開催。



レセプションには、ミシガン滋賀姉妹県州委員会や姉妹都市関係者、滋賀県人会メンバーも参加。近江の茶や滋賀の地酒の配布などで協力してくれたメンバーもいました。信楽を共通点に、陶芸家や来場者との会話も弾み、熱気とともに和やかな雰囲気漂う夜となりました。

同図書館のホールで開かれたレセプションの様子。

●日本食レストラン「SORAYA」での琵琶湖の恵み×陶器の特別メニュー

3月24日から26日、デトロイト市内の日本食レストラン、「SORAYA」の協力で、米国最大の陶芸コミュニティであるノースカロライナ州シーグローブを拠点に活動している陶芸家、柴田拓郎氏と柴田日登美氏の和食器を使用して滋賀の地酒と近江の茶のメニューを提供しました。信楽でプロの陶芸家になるための研鑽を積まれたお二人は、信楽の素材や産業、歴史に造詣が深く、何より信楽への愛情にあふれ、先の図書館での交流展とともに、全力でプロジェクトを支えてくださいました。

3日間の期間限定メニューでしたが、レストランによると、近江の茶付きのスペシャルメニューは81セット、滋賀の地酒セットは19セットを売り上げ。滋賀の地酒については、地酒セットを注文して気に入った方がボトルで注文してくれ、それだけでも8本以上出たそうです。



近江の茶が付いたスペシャルメニュー。



滋賀の地酒セット (甲賀市笑四季酒造)

昨年春、協力してくれる飲食店を探すため、繁華街を歩き回っていた際に見つけたのがこのレストランでした。レストランマネージャーがアナーバー市出身で彦根市の姉妹都市関係を知っていたこと、レストランは普段から様々なイベントを企画していることから話が進みました。先輩駐在員がミシガンで広めた茶や地酒を特別な陶器で提供したいという思いで温めていた企画がついに実現しました。

イベントは終了しましたが、レストランでは、引き続きこの和食器を使っていきたいとの意向で、さらに、近江の茶をメニューに加えることにも興味を持ってくださっています。今後のコラボレーションの可能性も含めて、引き続き関係を保っていきたいと思います。



店内での陶器の展示。

ミシガン滋賀姉妹県州委員会のこの2つのプロジェクトは、デトロイト日本商工会、ミシガン大学日本研究センターからの多大な支援をいただいて実現しました。この場をかりて厚く御礼申し上げます。このプロジェクトを通じて、世界中から集まった陶芸家や学生、また州内からの参加者に信楽を通じて日本文化への理解を深めてもらうことができました。滋賀とミシガンの姉妹交流を支えるみなさんと陶芸家の新たな出会いも生まれ、文化を通じた草の根の交流がさらに広がる手応えを感じています。これからも文化の力を通じて心を通わせることで、日米の友好関係をさらに深めていければと願っています。

2. 州内の陶芸を学ぶ学生に伝える、信楽の技と心！

3月21日、信楽窯業技術試験場の高畑場長はミシガン州内の2大学を訪問し、ロクロの実演と信楽についての講演を行いました。

ロクロ実演では、信楽の土を見せ、それを大学に用意いただいた土に混ぜて練りこむところから開始。その後、日本風の茶器、徳利、大皿、大物など10点ほどをロクロで作成。作成の過程で、信楽から持参した道具を実際を使用して紹介し、参加者からは普段使っている道具との違いに驚きの声が上がりました。



まずは信楽の土を紹介。

講演では、信楽焼の特徴や歴史だけでなく、産業の移り変わりや産地としての魅力も解説。さらに、高畑場長がテレビドラマへの陶芸指導や陶芸の漫画の監修などを行ったことも紹介。信楽焼の陶器を使ったお茶の入れ方の実演も行い、一煎目、二煎目の茶の色や味の違いを参加者に味わってもらいました。陶器を入れる木箱も実物を持参し、「包む」という日本独自の文化についても紹介し、信楽焼を通じて日本文化に幅広くアプローチできるような工夫も凝らしました。



今回訪問した大学のうち、ミシガン大学の芸術デザイン学部には、過去、学生が3週間ほど日本を訪れるプログラムがあり、信楽にも滞在していました。2017年にこの芸術デザイン学部の学生が信楽を訪問した際には、地元の学生と一緒にタイルを作成、彦根市のミシガン州立大学連合日本センターに飾られています。学生からはぜひプログラムを再開してほしい、信楽に行きたいという声が聞かれました。



信楽から持参した道具も使って実演。

担当して下さった陶芸担当の助教授からは、陶芸を学んでいる学生に将来の選択肢を示すことが大切だと考えており、必要なものはすべてコミュニティの中で手に入るという信楽の産地、産業の魅力、信楽焼を取り巻く様々な取り組みを教えてもらい、学生の視野を広げてもらうのに有益だったとのコメントを頂きました。

もう一つの訪問校であるミシガン州立大学では、甲賀市の姉妹都市であるデウィットや、大津市の姉妹都市であるランシングの姉妹都市関係者、地域の陶芸家も駆けつけてくれました。

高畑場長は、ぜひ信楽に遊びに来てほしい、一緒に窯で作品をつくろう、と参加者に投げかけられ、講演終了後、ぜひ見習いとして働きたいと申し出る学生も飛び出し、陶芸の道を目指す学生に信楽の魅力を伝える絶好の機会になりました。



学生や姉妹都市関係者が熱心に聴講。

教育交流

1. 未来のキャリアを描く！ミシガン州立大学学生による日本企業訪問

3月13日、ミシガン州立大学の学生45名を乗せたバスが寒い風が吹く早朝、キャンパスから出発しました。

ミシガン州と日本は経済的に強いつながりがあり、ミシガン州に進出している日系企業全体で州内で4万人近い雇用を生み出していますが、ミシガン州立大学では日本語コースの中にビジネスの要素が入ったものがなく、同大学日本語インストラクターの方の、ビジネスに関連した日本語コースを将来開講したい、その中で企業訪問ができるといい、というアイデアを聞き、ぜひ協力したいと思いこの企画が始まりました。

とはいえ、急には新しいコースを開講できないため、代替案として、2026年1月～3月の間に開講する授業「Japanese Businesses in Michigan」の最後の一コマにこの企業訪問が割り当てられました。この授業は初めて試みでしたが、13名の学生が登録。日本語の授業を履修したことのある学生と、そうでない学生が半分ずつで、ミシガン州立大学連合日本センターでの留学経験者、友好親善使節団野に参加したことのある学生も含まれていました。

学生は、企業訪問までの10回の授業の中で、ミシガン州内の日系企業について統計データや歴史から学び、さらにデトロイト総領事館で活躍する同大学卒業生や、デトロイト日本商工会会長、日系企業の社長などバラエティーに富んだゲストスピーカーによる講義で、様々な角度からミシガンでの日本ビジネスについて理解を深めました。さらに、授業の中で企業訪問の準備も行われ、学生は企業訪問先ごとにグループに分かれ、企業担当者への事前のメール連絡や質問項目作成、さらに訪問日当日の集団行動のサポート等も行いました。

私は、この企業訪問のアレンジを引き受けることになり、ミシガンに拠点を持つ滋賀県にゆかりのある企業を訪問し、企画について伝えました。どの企業もミシガン州立大学の学生の受け入れにとっても好反応でしたが、その中で、オフィス以外にも見学できる場所があること、そして、その分野で最先端の技術を持ち、実は見えないところで私たちの生活に密接に結びついているという理由で、学生たちの日本企業へのイメージや視野を広げてもらうためにピッタリだと思い、Asahi Kasei Plastics North America, Inc.と Daifuku North America, Inc.の2つの企業を今回訪問いただきました。

企業訪問のためにチャーターしたのは50人のバス。授業に登録した13名の学生と引率者を除いた席は、他の学部等から誰でも応募できるようにしました。とはいえ、フィールドトリップは金曜日。学生は、他の授業がある場合、欠席する手続きなどが発生するため、バスの席が埋まるか心配していました。ふたを開けてみると、募集開始後すぐに定員に達し、キャンセル待ちリストができるほどの人気。ビジネスだけでなく、映画、グラフィックデザインなど様々な専攻の学生が興味を持ち応募してくれ驚きました。



学生に配られた企業訪問のちらし。




Asahi Kasei Plastics North America, Inc. + フォロー ...
 AsahiKASEI 8,273人のフォロー
 2週間前

What does it look like to work for a global Japanese company in the United States? Students enrolled in Japanese Business at **Michigan State University** recently came to Asahi Kasei Plastics North America (APNA) to find out.

During their time on site, students participated in a plant tour, learned about APNA's operations and role in the global plastics industry, and gained insight into the company's culture and business approach. A highlight of the visit was a discussion with **Chris Esch**, Vice President of Manufacturing, who shared his experiences working for a Japanese company and offered valuable perspectives on international business and cross-cultural collaboration.

The visit concluded with a shared lunch between the students and APNA employees, creating an opportunity for more personal connections and meaningful conversations.

At APNA, we value opportunities to connect with the next generation of professionals and provide real-world insight into global manufacturing and business practices. Experiences like these help bridge the gap between the classroom and industry while fostering curiosity about careers.

2件のコメント · 4件の再投稿

Daifuku North America + フォロー ...
 DAIFUKU 45,320人のフォロー
 2週間前 · 編集済み

Our Novi, Michigan office recently welcomed a large group of **Michigan State University** students! ✨

MSU faculty/staff **Mariko Kawaguchi** & **Kelsey Fedewa** and the students learned about **株式会社ダイフク**'s global presence as well as our Airport and Automotive business in the US. Some of our leading engineers also provided an informative tour in our Innovation Center, showing Airport products.




This visit was part of a day-long Japanese Business Bus Trip, visiting Japanese companies in Michigan. It allowed students to gain insight into real-world business practices, career paths, and cross-cultural experiences.

It was a pleasure to host this group, as well as Keiko Nakajima from the Shiga Prefectural Government.

✔ Thanks for the visit, Spartans!

#DaifukuTeam #Airport #Automotive #MSU

翻訳を表示

114 1件のコメント · 11件の再投稿

Asahi Kasei Plastics North America, Inc. および Daifuku North America の LinkedIn より

企業の担当者の皆さんとは、当日に至るまで一年以上もやり取りを続けてきました。「学生を50人連れてくるので、」と言い続けてきた一年間、当日は、学生たちの存在感とパワー、将来性や前向きな姿勢を感じ、本当に大勢の学生を連れてきてしまった！と私自身もドキドキしていました。

どちらの企業でも、会社の事業についての詳しい説明に加え、実際に現場を見せてもらい、さらに社員と話す機会もいただきました。迎えてくださった社員の中には、ミシガン州立大学の卒業生や、ミシガン州立大学日本センターでの留学経験者など、大学で日本語を学んだ方もおられ、学生にとっては、普段大学の中にいるだけでは思いつかないようなキャリアパスについて知ってもらえる機会になりました。日本企業で働くよきだけでな

く、違和感を感じた経験なども含め、本音で語ってくださった社員も。日本企業と言っても従業員も企業風土もアメリカというケースもあり、日本企業のイメージのストックを増やしてもらい、将来の選択肢を考えてもらう有意義な時間になったのではと思います。

今回の訪問のために州外の事務所から駆けつけてくださった社員の方もおられ、各企業とも、ご多忙の中、学生を温かく迎え、貴重な機会をいただいたこと、心より感謝を申し上げます。

今後、同じ取り組みができるかは、いろいろな条件が整う必要があるので言及できませんが、日本語や日本文化を学んだ学生たちにとどまらず、様々な興味関心分野を持つ他の専攻の学生にも日本企業に目を向けてもらい、キャリアの中で日本とのつながりを持ってもらえるきっかけを作る取組を今後もぜひ進めていきたいです。

【なお、この取り組みは、[MSUToday](#) (ミシガン州立大学の学内イベント、学術分野を紹介するニュースサイト)でも取り上げられました。】

文化交流

1 春を告げる、デトロイト美術館ひな祭りイベント

3月1日、デトロイト美術館で開かれたデトロイト日本商工会主催の日本文化発信イベントにて、滋賀県の紹介および近江の茶の提供を行いました。3月はまだまだ寒く雪の降る日も多いですが、このひな祭りをテーマにしたイベントは、ミシガン州の春を告げるイベントとして定着しています。



オープニングで岸守総領事から、デトロイト美術館の日本ギャラリーは、アラブや中国など広範囲にわたるアジアの展示の中の一つで、小さいけれども学芸員のおかげで魅力的なものになっていること、さらに、日本は聖徳太子の時代から和を尊んでおり、日本の文化をハーモニーというレンズで様々なブースを楽しんでほしいとのメッセージがありました。引き続き、岸守総領事からアメリカにおける日本文化の普及の功績により、令和七年度外務大臣表彰を受けた大光敬史氏へ表彰状が手渡されました。



伝統楽器の演奏、金継のデモンストレーション、折り紙コーナーなど様々なブースが館内で繰り広げる中、滋賀県のブースでは、県の情報発信と近江の茶の試飲配布を行いました。今回は滋賀県魅力発信協力員として、近江の茶のプロモーションに協力していただいている金村氏と、このイベントの時期に合わせて来訪した県みらいの農業振興課の職員とともにブースを運営。公共財団法人びわこデジタルズビューロー海外誘客部で制作された「The road to becoming a real Koka ninja!」の放映も実施。県国際課の国際交流員も出演しているのですが、子どもたちに大人気で、立ち止まって凝視する子どもが続出でした。現地の人や日本人家族など大勢の方に立ち寄ってもらい、春の訪れのワクワク感とともに、参加者との交流を深めることができた一日でした。

